

日本女子大学 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

（大学全体）

日本女子大学は、その教育理念に基づき、幅広い教養と高度な専門知識・技能、そして豊かな人間性を備えた女性を育成するため、次の科目群を開設している。

- ・ 本学の建学の精神と教育理念を学ぶとともに、現代を生きる女性の様々な生き方や考え方にふれ、自己実現をはたすための教養特別講義。
- ・ 女性の仕事と人生の歩み方を考えるためのキャリア関連科目。
- ・ 様々な学問分野について広く知識を身に付け、柔軟な思考力と的確な行動力を身に付けるための教養教育に関わる科目。
- ・ 専門教育の基礎であるとともに現代人に必須のコミュニケーション能力を養うための外国語科目と情報処理関連の科目。
- ・ 豊かな人生の基盤となる心身の健康を保持・増進するためのスポーツ・身体運動。
- ・ 専門的知識・技能を身に付け、自発的に課題を見出し解決する能力を養う専門科目。
- ・ 個別指導による、学士課程の集大成としての卒業論文・卒業研究・卒業制作。

■家政学部

- ・ 複合領域の科学としての家政学の総合性・独自性を理解するために、家政学部共通科目を置く。
- ・ 実践的総合科学としての家政学の各分野を専門的に学ぶために、5学科の専門科目を置く。
- ・ 興味に応じて実践的な学修ができるよう、あるいは講義で修得した内容を実証するために、各分野の実習・実験科目を置く。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業論文・卒業研究・卒業制作のいずれかを必修とする。
- ・ 5学科の専門性に対応するキャリア形成を促進するために、資格関連の科目も重視する。

■家政学部通信教育課程

- ・ 複合領域の科学としての家政学の総合性・独自性を理解するために、家政学部共通科目を置く。
- ・ 実践的総合科学としての家政学の各分野を専門的に学ぶために、児童、食物、住居、被服学の専門科目を置く。
- ・ 学修の集大成として卒業時に共同生活を通じて、さらなる本学教育の理念への理解を深め、また、ゼミ形式で専門課題を学習する「軽井沢卒業セミナー」を必修で置く。
- ・ 通信教育の印刷教材による授業と面接授業の特性を生かし、テキスト科目とスクーリング科目を開講する。テキスト科目ではレポートの作成により、知識のみではなく思考力・表現力を習得する。スクーリング科目の実験実習では、知識・技能の他に思考力・判断力、他の学生と協働して学ぶ態度を習得し、演習科目では思考力・判断力・表現力を習得する。

■文学部

- ・ 人文学の各分野を専門的に学ぶために、3学科の専門科目を置く。
- ・ 段階的に専門知識を修得するための体系的な講義・演習科目を置く。
- ・ 資料・文献の読解力を養うための言語教育科目を置く。
- ・ 調査・考察・コミュニケーションの力を養うための演習科目を置く。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業論文を必修とする。
- ・ 卒業後の活躍の場を更に広げるために、副専攻（文学部コース制）として、「文化マネジメントコース」、「観光・文化コース」、「文化財コース」の3コースを置く。

■人間社会学部

- ・ 人間と社会を多様な視点から考察するために、5学科の専門科目を置く。
- ・ 資料・文献の読解力、コミュニケーション力を養うための外国語科目を置く。
- ・ 5つの分野が有機的に結びつき、国際的及び学際的な見方ができるよう、教養的な科目の他に他学科専門科目を通して3つの領域を総合的に学ぶ展開科目を置く。
- ・ 問題発見力、データ収集力、データ統合・分析力を能動的に学び、自立した実践力・行動力を養うための学生参加型の演習・実習科目を置く。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業論文・卒業研究のいずれかを必修とする。
- ・ 現代女性の生涯を視野に入れたキャリア形成に必要な知識や現状を学ぶことを目指すため、3コースからなるキャリア女性学副専攻を置く。

■理学部

- ・ 高等学校教育からの連続性に留意した基礎教育として、各分野の基礎的な力を身に付けるために、数学・物理学・化学・生物学・情報科学等の理学基礎系列の科目を置く。
- ・ 自然科学の各分野、及び境界領域分野における専門的知識や論理的思考法を修得させるため、数学・物理学・化学・生物学・分子生命科学・環境科学・情報科学の各分野の体系的な授業科目として専門科目を置く。
- ・ 各分野の講義で修得した内容を実証するための実験科目並びに演習科目を置く。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業研究を必修とする。

■国際文化学部

- ・ 多様な地域・領域の文化を専門的に学ぶために、国際文化学科の専門科目を置く。
- ・ 複合領域としての国際文化の学びにアプローチするために、理論的かつ実践的な導入科目を置き、「越境体験」としての海外短期研修を必修とする。
- ・ 大学での学びに必要な論理的思考・スキル・ICT・コミュニケーション力や、国際文化研究の基本的な方法を身に付けるために、アカデミック・トレーニング科目を置く。
- ・ 海外・国内を問わず、教室の外に文化に関連する課題を見出し、他者と協力しながら解決する力を身に付けることを目的とする実習科目として「実践プログラム」を置き、その成果を外国語で発信する科目と合わせて、実践トレーニング科目とする。
- ・ 4年間の学修の集大成として、卒業研究を必修とする。